

北陸での戦い

治承四年(1180)4月、以仁王の令旨を以って、源氏と平氏の戦いは本格化します。関東では、源頼朝が鎌倉で力を持ち始める一方、治承五年(1181)6月、信濃の横田河原の戦いで木曾義仲が平氏を奇襲戦法で破りました。その話が北陸の武士たちに伝わり、義仲方に従う武士が増え、反平氏の色が濃くなります。以降、平氏の軍が度々北陸に攻め入り、合戦が起きるようになりました。加賀地域周辺での合戦が激化した、寿永二年(1183)の主だった戦いを紹介します。

月日	合戦場所	事項	出典
4	越前	北陸道追討使平維盛を大将とする平氏の大軍が越前国に攻め入る。	
4/21	越前燧（火燧）城	燧城から逃れて加賀国に退き、白山麓に引きこもった武士に、加賀の林六郎光明、富樫入道仏誓がいたとされる	覚一本平家物語
4/26	越前三條野	林光明の嫡子である今城寺太郎光平が、平氏方の侍である斉藤別当実盛と戦い、敗れる	源平盛衰記
5/3	加賀国	平氏軍は、義仲に従う林氏・富樫氏の城を攻め落とし、源平双方多数の死傷者がでる。安宅湊では、富樫太郎宗親が負傷	延慶本平家物語 長門本平家物語
5/11	俱利伽羅峠	義仲、平氏軍を破る	
	安宅湊	敗走する平氏軍を義仲が追撃。林光明は250騎を率いて戦う	長門本平家物語
6/2	篠原	平氏方の斉藤別当実盛、手塚光盛に討たれる	延慶本平家物語
7	近江国	義仲、林・富樫一党に比叡山の支援工作をさせる。成功し、義仲は入京の機をうかがう	源平盛衰記
7/25		平家一門都落ち	
7/28	京都	義仲、入京。これ以降、北国の武士たちは、義仲から離れて戦線を離脱するようになる。	